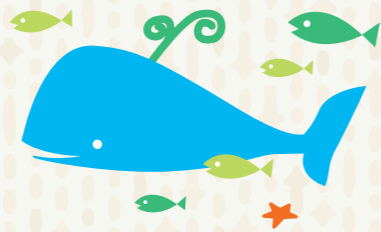


手渡したいのは青い空



あおぞら財団で学べるSDGs



あおぞら財団の研修では、公害の経験を学ぶことを通じて、SDGsの視点を養います。公害の歴史や課題だけでなく、解決に向けた対話や協働の重要性を学ぶ参加型プログラムを提供しています。

研修・講演等の申し込みはこちら▶



【実績】

○研修・フィールドワーク受入

追手門学院大学、大阪医科薬科大学、大阪公立大学、大阪狭山市、関西大学、環境再生保全機構、環境省、立命館大学、龍谷大学など

○講師派遣

西淀川区内小学校・中学校、大阪市総合教育センター教職員研修、淀川勤労者厚生協会など

■アクセス ・新大阪駅から 約20分 ・大阪駅から 約20分

みてじま  
●JR東西線「御幣島」駅下車 8a番出口より徒歩10分 ●阪神本線「姫島」駅より徒歩10分



あおぞら財団

1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判（1978年～1998年）では、公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。



公益財団法人 公害地域再生センター（あおぞら財団）  
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1-4F  
TEL:06-6475-8885 FAX:06-6478-5885



公害地域から  
持続可能な地域へ



—まちが見えてくる。大気汚染公害地域 西淀川で学ぶSDGs 教育研修プログラム—



# 住民はどうやって環境を取り戻した？

「手渡そう 川と島とみどりの街」(西淀川再生プランに掲げられたスローガン)



「大野川緑陰道路」野鳥や虫など、様々な生物が生息しています

## 住民の力で、地域は変わる。

公害に苦しんだ西淀川の街では、大気汚染に苦しんだ患者たちが立ち上がり、大企業や国を相手に公害裁判をおこないました。「手渡したいのは青い空」という合言葉のもと、専門家の協力や市民の支援を得て、多くの困難を乗り越えて和解を勝ち取りました。

その和解金の一部を活用し、地域再生の拠点として「あおぞら財団」が1996年に設立され、住民とともにまちづくりが進められています。

同じように、住民の力によって、よりよい環境を

取り戻したものが「大野川緑陰道路」。1960年代、ドブ川だった大野川を埋め立て、自動車専用道路にする計画がありましたが、住民の反対運動によって緑あふれる遊歩道へと生まれ変わりました。この道は、住民の声と行動によって実現した、西淀川の再生を象徴する場所です。

西淀川の住民たちが、過酷な公害と向き合い、訴訟や運動を通じてどのような環境を勝ち取ったのか——その歴史や成果を、街を歩きながら実感してみませんか？



1960年代頃の大野川  
出典：写真で見る大阪市 100年



緑陰道路のための署名用紙(1969年)  
エコミューズ所蔵資料 個人情報保護のため一部加工



大野川緑陰道路パレード  
喜多幡龍次郎氏寄贈資料 エコミューズ所蔵資料

## 手渡したいのは青い空



「入道雲が見えるのはうれしい」

そう語るのは、「西淀川公害患者と家族の会」の岡崎久々さん。結婚を機に、西淀川へやって来て3年目に公害病のせん息に発作が起きると、水をはった洗面器に顔を押し付けられるような息苦しさ。岡崎さんは、せん息のひどい発作で仮死状態になったこともありま。

大気汚染がひどい頃には、「晴れなのに、淀んでいる晴れて何やる」と思っていたそうです。子どもも公害病になり、手にかけて一緒に死のうと思った時も。「あんなつらい思いは絶対したくない」と、西淀川に来る人達に語り部として、お話しています。

公害を繰り返さずに持続可能な地域にするためにはどうしたらよいか、西淀川に来て、一緒に考えてみませんか？



西淀川公害患者と家族の会 岡崎久々さん

今は青空。夏には大きな入道雲も見えます。

# 工場はどこにいった!?

60年代の西淀川の空はいつもどんよりくもり空。  
洗濯物も煙突から出る煤煙ですぐに真っ黒に。(公害患者の言葉)

## 公害のデパートとよばれた街

高度経済成長期に西淀川は阪神工業地帯の一角として発展しました。

西淀川は中小の工場が多く、住宅と工場が混在する地域で、工場からの煤煙や自動車からの排ガスが住民の健康をおびやかしました。また隣接する尼崎市や此花区などの大工場から大気汚染物質が流入する「もらい公害」の影響も大きく、呼吸器疾患の患者が非常に多くでました。さらに、振動や騒音など典型7公害といわれる被害があり“公害のデパート”とよばれていました。

今の西淀川の街をみると、その面影は感じられないかもしれません。新築マンションと昔ながらの住宅が混在する“普通のまち”のようです。しかし、注意深く見てみると、街中に残る中小の工場や公害を改善するために工場が取り組んださまざまな工夫や努力が見えてきます。

街をめくりながら、土地利用の変化や人々の努力や工夫に目をむけてみませんか。自分が暮らすまちの見え方もかわってくるかもしれません。



「在りし日の合同製鐵」作者：亀川亀



合同製鐵と民家(1978年)  
エコミューズ所蔵資料



大気汚染物質の排出を抑えるため  
建屋集塵装置が設置されています



工場と住宅が隣り合う西淀川  
働く場と暮らす場が共存する街

# 「公害道路」の今は?

国道に大型車が通ると窓枠がガタガタして、うるさくて眠れなかった。  
風邪をひいてなくても、咳や痰が止まらない。(公害患者の言葉)



大型車が行き交う「国道43号」。大型車を湾岸線へ誘導する環境ロードプライシングが実施されている

## 市民の声を道路環境対策に反映

西淀川には、国道43号をはじめ、国道2号、阪神高速道路3号、5号、11号の3本と多くの幹線道路が通っています。特に、住宅地を分断し、多くの大型車が通行する国道43号は「公害道路」とも呼ばれていました。今でも一日2万台弱の大型車、普通車も入れると7万台の交通量があります。大量の排ガスによる大気汚染のほか、騒音、振動も激しく、周辺の住民の生活をさいなみました。これらの幹線道路もたらした道路公害は、工場による大気汚染に加え、西淀川公害訴訟でも大きな争点の一つでした。

大気汚染公害裁判の和解を踏まえて、毎年、公害患者と道路管理者が「道路連絡会」とよばれる会議を開き、道路環境対策について議論を行っています。

その連絡会の成果として、国道43号の車線の削減や国の取り組みにさきがけたPM2.5の測定など、先駆的な対策がすすめられてきました。

かつて「公害道路」とよばれた道路は、市民の働きかけによって対策がすすみつつあります。道路沿道の環境はよくなっているのでしょうか?具体的にはどんな取り組みがみえるのでしょうか。



阪神高速大阪西宮線(現神戸線)の建設に対する反対運動。建設中の橋脚に登って抗議する人物(1975年) エコミューズ所蔵資料



大気常時測定局の看板  
西淀川では全国に先駆けて2005年からPM2.5を測定しています



歌島橋交差点  
かつて主要な渋滞ポイントだった五叉路渋滞は緩和されたものの、歩行者は地上を渡れません

# 西淀川区は海の中!?

一週間ほど水がひかなかった。水がひいたと思ったら、あくる日の朝にはまた水に浸かっていた。(第二室戸台風の体験者の話)

## 地盤沈下が水害のリスクを引き上げている

街中のいたるところにみられる海拔0m未満の表示。西淀川は高い堤防に囲まれていなかったら、海の中に沈んでいるかもしれません。

西淀川は新田開拓によって埋め立てられた土地であるのに加え、工業用水の汲み上げが地盤沈下を招きました。地盤沈下は典型 7 公害の一つ。地盤の低さは水害のリスクを高め、西淀川は何度も水害や高潮の被害に見舞われてきました。

さらに近年では、気候変動による集中豪雨や台風の激化で水害の危険性が増しています。こうした背景の中、西淀川では過去の経験を教訓に防災対策を進め、地域全体で災害に備える試みが行われています。

西淀川の歴史を振り返り、公害の影響を踏まえながら、この街が今後持続可能な地域であるために防災対策がいかに重要であるかを学びます。

防災に「これが正解」という明確な答えはありません。西淀川の取り組みから、今後の防災について一緒に考えてみましょう。



海拔 0m 地帯の西淀川の風景



1960年代頃の大野川  
出典：写真で見る大阪市 100年



西淀川区内の海拔表示



水防碑

# 地域再生のキーワードは「パートナーシップ」

コミュニティ機能の回復・育成は、行政・企業・住民の信頼・協働関係の再構築などによって実現される。(あおぞら財団設立趣意書)



あおぞら財団による各種事業：アートイベント、マルシェ、呼吸リハビリ、音楽祭、公害資料館

## いろいろな人がいる地域だからこそ「パートナーシップ」

「まちづくり」を実現するために、思いつくことをなんでもやっています。幅広くやっていく中で、多くの担い手が生まれたいらうれしい。いろいろな人に関わってもらってまちづくりを一緒にすすめていきたいと思っています」と話す、あおぞら財団事務局長の藤江徹。アートを通じ住民が交流するアートイベント「みてアート」をはじめ 10 年以上。

あおぞら財団が事務局を担い、多くの住民が関わる今では多くの区民に愛されるイベントになっています。

あおぞら財団では、公害患者さんが少しでも楽に生活できるよう「呼吸リハビリテーション」を行ったり、地域の防災を考える学習、西淀川・公害と環境資料館(エコミューズ)の運営、西淀川・日本の経験を伝え交流するために海外からの視察受入や海外へ出かけて行ったりもしています。

今、西淀川は、マンションが多く建設され、新しい住民が増えています。また、西日本最大級のモスク「大阪マシジド」があるなど日本以外にルーツをもつ人々が多い地域でもあります。もとをたどると、高度成長期に日本全国から多くの人に移り住んだ地域でもあり、多くの人々を受け入れてきた地域とも言えます。

西淀川に移り住んできた多くの人々が、公害や水害の被害にあい、その度に手を取り合い、解決にむけ取り組んできました。被害を繰り返さないためにも、「手渡したいのは青い空」という公害患者さんの思いを実現するためにも、多岐に渡る取り組みを多様な人々と進めています。まちづくりには何が必要なのか、西淀川の地域再生の事例をもとに考えてみませんか？



中国の環境 NGO と交流

# 西淀川で学ぶ研修ある日の1日

今日のお題は

「公害は改善したのか!？」

今日のコースのねらいと見学の心得を最初に説明します



研究員 谷内 久美子

感想 かつての公害地域の今の姿を実感



感想 現地で公害防止策を学べた

感想 予防の重要性を改めて認識

感想 患者さんの言葉に胸を打たれた

感想 市民は社会を変えられる!

感想 公害被害は過去のものではない

感想 公害地域の再生には、環境回復以外の重要



きれいなになってたし解決したんちゃう?

17:00 解散



いやいやまだまだやで

16:30

ふりかえる

お題に合わせて、ふりかえりを行います。

半日コース 4時間 × 徒歩の場合  
プログラム料 40,000円  
(1時間 10,000円(税別) × 滞在時間) (ガイドは2人同行します)  
※参加者が20人以上の場合はガイドが3人同行となり、(15,000円(税別) × 滞在時間)となります。

◎人数: 1人~30人(それ以上は要相談)  
◎資料代: フィールドワークマップ(500円)(税別)など  
※受け入れ時間と人数に応じてご相談にのります。まずはお問い合わせください。



13:00

集合&オリエンテーション



大型車多いなあー



あおぞら財団に到着

14:50

西淀川公害についてのレクチャー

参加型教材(10ページ)を活用、西淀川公害をより深く学びます。エコミューズ(資料館)の見学も行います。



15:30

公害語り部との交流

公害語り部から被害の実情や公害反対運動への思いを語っていただきます。質問や感想の共有を通して、公害語り部と交流します。

空はいつも曇ってましたよ

我々が案内します



研究員 鎗山 善理子

事務局長・研究員 藤江 徹

## タンデム自転車

少人数の研修はタンデム自転車がおすすめ!



貸出料: 1台当たり1,000円(税別)  
人数: 2~12人

- ・徒歩での移動より長距離の移動が可能になります。
- ・2人で一緒にこぐので、信頼関係の構築にも役立ちます。
- ・高低差や匂い、音といった情報を五感で得ることができます。

## フィールドワーク

### ■他の見どころ

- 〈国道43号〉公害対策をみつける
- 〈あおぞら苑〉和解金でできた高齢者施設
- 〈地域再生の石碑〉石碑にこめられた地域再生に思いを馳せる
- 〈大阪 Masjid〉西淀川の多文化共生を感じる
- 〈大野川緑陰道路〉ドブ川から生まれ変わった遊歩道を体感
- 工場と住宅の近さ、地盤の低さなど地域の課題を体感



あおぞら財団がフィールドワークで大切にしている3つのこと

- 1 現場から学ぶ
- 2 社会を変える力を持つことを知り、市民力を高める
- 3 多様性を大事にし、さまざまな視点から学ぶ

# 多様な立場から西淀川公害を聞く

あおぞら財団の研修では、公害患者さんをはじめ、弁護士、医師、企業、行政関係者など多様な立場の人達のお話を聞くことができます。

被害の実情や公害反対運動への思いを語り継ぐことで、「公害を繰り返さない持続可能な社会」の実現を目指しています。



やました あきら  
山下 明さん

「人間を潰しての経済成長はやめてほしい。みんなのためになる『柔らかな成長』をしてほしい」語りから仕事への誇りと家族への思いが溢れます。昭和50年に公害病の認定を受ける。



むらまつ あきお  
村松 昭夫さん

「『この裁判を負かせたら大変なことになる』そういうプレッシャーをどこまで裁判官に伝えるかという思いでした」『人間の尊厳』の回復を目指して西淀川公害訴訟に関わることに。弁護士、あおぞら財団理事長。



すえ さよこ  
須恵 佐輿子さん

「大気汚染で子どもたちが育てていた観音用のアサガオがひと晩で枯れたことも」話のはしばしから家族への愛があふれる！民謡大好き。昭和45年に公害病の認定を受ける。



やまぎし きみお  
山岸 公夫さん

「手渡したいのは青い空」っていうスローガンがあったおかげで、企業は和解を受け入れたとも言えるんじゃないかと私は思ってるんです」元神戸製鋼所の法務担当者。

## 西淀川公害患者と家族の会



語りに関する動画やテキストも準備しています。ダウンロードして利用できる研修の事前学習や授業などでもご活用いただけます。



## オススメしたい関連資料

### WEB サイト

「公害 みんなで力をあわせて  
—大阪・西淀川地域の記録と証言—」  
大阪・西淀川地域の公害に対し様々な立場の人がどう行動したかわかります。



「記録で見る大気汚染と裁判」  
日本各地の大気汚染とその公害裁判に関する情報が掲載されています。西淀川大気汚染公害裁判についても掲載されています。(環境再生保全機構)



### 書籍

「青い空の記憶 大気汚染とたたかった人びとの物語」  
新島 洋 (著) (教育史料出版会)  
汚染された空気によるぜんそく被害と、苦しみの中で闘った人々。西淀川公害裁判20年の記録。



「西淀川公害の40年 維持可能な環境都市をめざして」  
除本 理史・林 美帆 (編著) (ミネルヴァ書房)  
深刻な公害被害から環境再生へ。公害裁判を経て協働を模索した西淀川公害患者会の経験から、新しい時代の「環境再生のまちづくり」を探る。



## 役になりきって学ぶロールプレイ教材 「あなたのまちで公害が起きたら」



このアクティビティでは、公害の問題解決についてロールプレイング（お芝居）を通して模擬的に体験し、気候変動など環境問題への課題解決の糸口を考えます。

所要時間：45分～  
対象：中学生以上 人数：5人～

## 写真をみてみんなで考える教材 フォトランゲージ「西淀川大気汚染公害」



公害について口頭で伝えても、当時を知らない人にとっては、イメージするのは難しいことです。この教材は、写真をよく観察し、想像力を働かせる活動です。他の教材と組み合わせて使うと効果的です。

所要時間：45分～  
対象：小学高学年～ 人数：2人～

## 授業でつかえる参加型教材をご紹介します!!

研修・フィールドワークの理解をより深めるための、西淀川公害や気候変動、防災についての参加型教材を開発しました。webからのダウンロードや、貸し出しをおこなっています。教材を使った出張授業も行っています。



## 気候変動と公害、防災を足元から結び付けて考える教材 「気候変動×防災×公害」ハンドブック



気候変動や防災、公害をテーマにした教材。「知識編」では、気候変動・防災・公害の関係を解説しています。「アクティビティ編」では、気候変動・防災・公害を参加型で学べる5つのアクティビティを掲載しています。

所要時間：45分～  
対象：高校生～ 人数：2人～

## 「夕食作り」から食と交通、環境を体験型で学ぶ教材 フードマイレージ買物ゲーム



食材を写真カードにして、買物を疑似体験します。お買い物ゲームを通して、地球に優しいお買い物について考えます。

所要時間：45分～  
対象：小学高学年～ 人数：2人～

## 講演・出張も行います

あおぞら財団のスタッフが出向いて、西淀川公害の出張授業をします。大阪・西淀川の大気汚染公害に関する授業だけでなく、気候変動、防災、身近な環境などの講義、講演も可能です。

費用の目安：1時間 10,000円(税別)【応相談】

